令和 6 年度　学校評価総括表　　学校名　　生駒市立生駒南小学校

Ⅰ　学校教育目標　「みんな元気で　なかまを思いやり　みずから学ぶ子」の育成

Ⅱ　前年度に残された課題	Ⅲ　本年度の重点課題	Ⅳ　来年度に残された課題
・家庭学習の充実 ・基礎学力の定着 ・児童に自分の学びにあった学習方法を選択できる力を身につけさせる ・児童の個に応じた指導ができるようにする ・ICTの活用に頼りすぎない ・ICTの活用により個別最適な学びにつながるようにする ・友達だけでなく、身近な大人にも挨拶ができるようにする ・情報モラル教育を徹底させる ・協働活動にもっと多くのボランティアに参加してもらえるようにする	●確かな学力の育成 ①基礎基本の定着　②家庭学習の充実　③個別最適な学びと協働的な学びの充実 ●豊かな心の育成 ④あいさつ運動の取組　⑤情報モラル教育の徹底　⑥規範意識の向上 ●健やかな身体の育成 ⑦体力づくり　⑧健康づくり ●その他の課題 ⑨地域との連携・協働　⑩保幼小中の連携	・家庭学習を充実させ、児童の自主的な学びを促進する。 ・児童が主体的に活動することで学習の面白みを知り自分から学習する力を身につけられるようにする。 ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業改善を行う。 ・情報モラルの徹底と家庭への啓発を行う。 ・新規のスクールボランティアを増やすとともに連絡体制を見直す。 ・保幼小中で授業参観や研修、意見交換などの機会を作り連携を深める。

〔1〕〔重点課題番号〕〔評価項目〕	[2]具体的達成目標と評価指標 具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化 公表E　6月25日 公表方法　☐ ホームページ　☐ 文書配布　☐ 説明会実施　☑ その他	評定	[3]自己評価 中間評価 評価日 公表日 公表方法　☐ ホームページ　☐ 文書配布　☐ 説明会実施　☐ その他	[4]外部アンケートの分析 児童生徒アンケート 実施E　1月14日 公表E　2月26日 公表方法　☑ ホームページ　☑ 文書配布　☐ 説明会実施　☑ その他	保護者アンケート 実施E　1月14日 公表E　2月26日 公表方法　☑ ホームページ　☑ 文書配布　☐ 説明会実施　☐ その他	評定	[5]自己評価 最終評価(成果と課題) 評価日　1月14日 公表日　3月4日 公表方法　☑ ホームページ　☐ 文書配布　☐ 説明会実施　☐ その他	課題の改善策等	[6]学校関係者評価 評価者人数 評価日　3月4日 公表日　3月24日 公表方法　☑ ホームページ　☑ 文書配布　☐ 説明会実施　☐ その他
①	○各単元の評価テストで平均85点以上を目指す ○90%以上の児童が「授業が楽しい・分かる」と思えるよう、授業の工夫に努める ○漢字、計算の定着度を確認するプリントを作成し毎月行う ○児童の力やペースに応じて学習できるようデジタルドリルを活用する ○毎時間、学習のめあてやルーブリックを提示することにより児童自身が学ぶべきことを明確にして学習に取			・「授業が楽しい」の問いに81.4%、「授業はよく分かる」の問いに89.1%の児童が肯定的な回答をした。	・「子どもは授業が楽しいと言っている」の問いに68%の保護者が肯定的な回答をした。 ・「子どもは授業がよく分かると言っている」の問いに71%の保護者が肯定的な回答をした。	B	・学習内容が定着するまで何度も繰り返して学習するようにした。 ・児童が楽しく学習に取り組めるように児童に合わせた学習内容を工夫した。 ・ICT機器の活用、授業や家庭学習の工夫などにより算数では効果が認められつつあるが国語の力（読解力や思考力など）については課題を感じる。 ・どの学年でも児童の実態に応じて紙のドリルとデジタルのドリルを使い分けていた。 ・毎時間、児童が学習のめあてやルーブリックを明確にして取り組めるように努めた。 ・復習プリント「みなみっこ」を継続的に実施できた。	・国語の力は普段の読書量との関連も考えられるので、よみきかせだけではなく、教師が工夫して児童が本に親しみ自ら読む意欲付けをするようにしていきたい。 ・漢字や計算の定着を確認するプリントは来年度も継続して行う。	・児童が「授業が楽しい」や「授業がよく分かる」と感じることは教員の教え方と関係があると思われるので、教員の授業スキルを高めることは大事だ。 ・子どもたちの読書離れが進んでいると感じるので、ぜひ読書を推進してもらいたい。
②	○90%以上の児童が毎日家庭学習に取り組み、各学年のめやすとされる時間の学習ができることを目指す ○「家庭学習の手引き」を配布し家庭学習の大切さを児童、保護者に伝える			・「毎日家で勉強している」の問いに90.4%の児童が肯定的な回答をした。	・「子どもは毎日家庭学習に取り組んでいる」の問いに75%の保護者が肯定的な回答をした。	B	・家庭学習について様々な考え方に触れ、どのような形が子どもたちにとって良いのかを考える機会となった。 ・家庭学習の大切さについて学年で取り組み、啓発をしてきた。一定の成果は見られるが、取り組みの状況に個人差があり、まだ十分でない児童もいるのが課題である。	・家庭学習の大切さを継続して保護者へも啓発する。 ・本校の実態に合わせた「家庭学習の手引き」の作成を検討する。 ・低学年から家庭とも連携して家庭学習の習慣づけを図る。	・家庭学習の充実には保護者の協力が欠かせない。
③	○「対話を通して互いのよさを認め合いより良い学びを実現する授業改善」をテーマに授業研究を行う ○自由進度学習の研修を行い各学年の実態に応じて実施する ○各児童が自分の力やペースに合わせて自分に合った学び方を選べる機会を増やしていく			（評価項目なし）	（評価項目なし）	A	・年間3回の授業研究を通しての研修をもつことができた。 ・様々な教科の学習で対話の場面を意図的に取り入れた。 ・全体で「児童の主体性を育てる取組」について研修し、各学年の実態に応じた進め方を検討した。 ・児童が自主性や主体性をもてるようになることを目指して取り組んできた。一定の成果は見られるが児童の力や意欲に個人差があり課題である。	・授業改革を推進するにあたり、教員自身も主体的に学ぶ姿勢を持つとともに、職員間の意識の共有を大事にしていきたい。また、保護者への情報発信も積極的に行う必要がある。 ・児童の学びを促進するためには、低中高学年で段階的に主体的な学びの形を取り入れていけるよう全体での共通理解を図る。 ・どんな授業形態で行うにしても、個に応じた指導の継続は大事にしたい。	・時代に合わせて子どもたちの学習形態がどんどん変わってきている。先生たちも大変だと思う。 ・保護者アンケートの子どもたちに身につけさせたい力としてあがっている「自分で考え行動する力」は大切だと思う。
④	○「進んであいさつをしている」児童の割合が85%以上を目指す ○地域の活動と連動して児童会でもあいさつ運動に取り組む			・「進んであいさつができた」の問いに85.1%の児童が肯定的な回答をした。	・「子どもは自ら進んであいさつができている」の問いに73.8%の保護者が肯定的な回答をした。	A	・あいさつ週間など特定の取組期間だけでなく、日常的に挨拶ができるようにしていきたい。	・実行委員会の児童がいきいきと取り組んでいる姿を地域へも広げていきたい。 ・地域のあいさつ運動の日に合わせて学校でも取り組む。	・大人がお手本になるようにしていきたい。
⑤	○出前授業や道徳の授業を通して情報モラルについての指導を継続的に行う ○家庭でもインターネットを使うときのきまりを作るよう呼びかける ○90%以上の児童がインターネットを使うときのきまりを守り正しく使えるようにする			・「インターネットを使うときは、きまりを守って正しく使っている」の問いに84.1%の児童が肯定的な回答をした。	・「子どもはきまりを守って正しくインターネットを使っている」の問いに74%の保護者が肯定的な回答をした。	B	・情報モラル教育はどの学年でも取組を行ってきた。知識としては理解していても実生活にはなかなか結び付いていないように感じる。 ・情報モラルについて、保護者からも心配の声が上がっており、継続指導が必要である。 ・情報モラルや規範意識についての指導は高学年でトラブルが起こってからではなかなか響かない。	・情報モラルや規範意識については下学年から繰り返し指導を行う必要がある。 ・児童への指導だけでなく、保護者への啓発も行い家庭でのルール作りや見守りなどの協力をお願いする。	・子どもたちの情報機器活用の力には目を見張るものがある。大人の知らないところでどんどん情報を得ているが正しく活用できるような指導が必要である。 ・情報モラルの指導について、教員の指導だけでなく企業が実施している出前講座など、有効なものがあると聞いたことがあるのでぜひ活用するとよい。
⑥	○90%以上の児童が、誰にでも思いやりの心をもって接っすることができるようにする ○「みなみのやくそく」の3つの柱について各学級での日常での指導に加えてさわやか朝会などを活用し定期的に全校指導を行う ○道徳の年間計画に基づき、各内容項目の指導をバランスよく行う			・「周りの人に思いやりの心もって接することができた」の問いに87.1%の児童が肯定的な回答をした。	（評価項目なし）	B	・日ごろから「みなみのやくそく」を振り返る機会を多く持つことにより、児童に意識させることができた。 ・相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちをもって接する児童も多くいるが個人差がある。	・「みなみのやくそく」を常に振り返ることができるよう、定期的に指導の機会をもつようにする。	・南小の子どもたちは思いやりのある優しい子が多いと感じる。
⑦ ⑧	○90%以上の児童が運動や外遊びに親しめるようにする ○GnPやのびのび活動をつうじて楽しみながら運動に取り組める環境と機会を作る ○南小ギネスを各学期に行いより多くの児童が参加できるよう呼びかける ○90%の児童が規則正しい生活リズムを作れるようにする ○学校だよりや学年だよりで規則正しい生活ができる			・「外遊びや運動をした」の問いに80.2%の児童が肯定的な回答をした。 ・「規則正しい生活ができた」の問いに84.5%の児童が肯定的な回答をした。	・「子どもは積極的に体力づくり・健康づくりに取り組んでいる」の問いに61.3%の児童が肯定的な回答をした。	B	・体育部や体育委員会で様々な取組を行ったことで子どもたちも楽しく取り組めた。 ・体育のミニ研修を通じて系統立てた指導法について学べた。 ・外遊びを好まない児童も「みんなあそび」のときにはいっしょに外で遊ぶことができたが、なかなか次へはつながらない。 ・南小ギネスの取組は体力づくりだけでなく学級づくりにも生かされている。 ・基本的な生活習慣は家庭の事情に影響される部分が大きい。	・体育部や体育委員会の取り組みを継続し、運動が苦手な児童も無理なく楽しみながら運動できる機会を確保する。 ・規則正しい生活リズムは保護者の協力が不可欠なので、保護者へも積極的に啓発を行いたい。	・昔は地域の子供会の行事でソフトボール大会などがあって運動する機会があり、このような経験が体力向上につながっていたと思うが今はこういった行事もなくなっている。学校で運動の機会を作ったり、放課後に地域の公園や運動場で自由に思いっきり体を動かして遊べたりできるとよい。 ・地域にはいろいろなスポーツクラブがあり、参加している子も多いので体力があると思っていたが、平均くらいにとどまっているのは意外だ。
⑨	○地域ボランティアの幅を広げられるよう広報活動を行う ○児童が多様な人材と関わる場づくりを行う ○コーディネータを中心とした連絡体制づくりを行う ○ボランティア会議を定期的に開催する			（評価項目なし）	（評価項目なし）	B	・地域ボランティアの方々によく助けていただいたが、新規のボランティアがなかなか集まらず負担になっていないか心配になる。 ・ボランティアさんとの日程調整が難しい。 ・6年生と中学生の地域清掃はいい経験になるが事前準備や時間確保に課題がある。 ・ボランティア会議の開催回数が少なかったために活動の見通しをもてなかった。	・ボランティアの内容や募集のお知らせを広く行い、新規にボランティアとして参加してくださる方を増やせるようにする。 ・日程調整がスムーズに行くように連絡体制づくりを行う。 ・複数回のボランティア会議を計画し、見通しをもって活動できるようにする。	・スクールボランティアに参加し、教員とのつながりが増えた。学校で教員がどのように児童と関わっているのかなど、学校のことをよく知ることができるので、もっと多くの人にボランティアに参加してもらいたい。 ・運営協議会の方々にもボランティア参加してもらえると学校の様子がもっとよく分かるのではないか。 ・新規のスクールボランティアを増やしていきたい。
⑩	○保幼小連携の行事を年間5回程度行い、交流できるようにする ○中学校と連携し、地域ボランティアや支援学級交流、休業期間中の行事等を実施する ○南こども園、小平尾保育園、南中学校と参観交流を行い、お互いの活動や子どもの実態について学び合う機会をもつ			（評価項目なし）	（評価項目なし）	A	・保幼小連携事業は予定通り実施できた。 ・今年度、初めて保育園を参観させてもらって勉強になった。 ・今年度は、生駒南中学校と合同の研修会や意見交流の場を持つことができた。	・保幼小連携事業は継続して行うとともに、お互いの参観も計画する。 ・小中で意見交流や研修、授業参観など様々な交流の機会を設定する。	・これからも保幼小中の連携を進めていってほしい。 ・特に小学校と中学校は校舎建替えに関連して、これからますます連携が必要である。